

令和3年度 司書講習 講義概要(シラバス)

生涯学習概論

講師 にしむら みとし
西村 美東士

講義概要・授業計画 生涯学習とは、個人が自己のものの見方・考え方を生涯にわたる学びによってより発展させ、暮らしや仕事を充実させる自己決定の活動である。同時に、今日では、人々がたがいに学びあい、支えあうことによって、地域や社会を形成する相互関与の活動としての側面が注目される。

「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」（平成 24 年文部科学省告示）では、「利用者がインターネット等の利用により外部の情報にアクセスできる環境の提供、利用者の求めに応じ、求める資料・情報にアクセスできる地域内外の機関等を紹介するレフェラルサービスの実施に努めるものとする」とし、利用者及び住民の生活や仕事に関する課題や地域の課題の解決に向けた活動を支援するよう求めている。

「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」（平成 30 年中教審答申）では、次のように「地域住民の情報拠点、交流拠点」としての機能強化が期待されている。「今後は、一人一人の人格を陶冶し、人生を豊かにする読書や調査研究の機会を提供する役割を強化するとともに、『社会に開かれた教育課程の実現』に向け、学校との連携の強化や、商工労働部局や健康福祉部局等とも連携した個人のスキルアップや就業等の支援、地域課題の解決や地域の先駆的・主体的な取組の支援に資するレファレンス機能の充実など、地域住民のニーズに対応できる情報拠点としての役割の強化が求められる。さらには、まちづくりの中核となる地域住民の交流の拠点としての機能の強化等も期待される」。

過去には、図書館（司書）と社会教育（主事）とは、同じ社会教育の仲間でありながら、前者の個人尊重と後者の社会形成重視の考え方がぶつかってきたこともある。だが、今日の個人化社会においては、両者とも、個人としての充実と、社会の一員としての役割発揮による充実を、一体化して進める必要がある。

本講義においては、このような視点から、人々の暮らしと仕事に根ざしたニーズを理解する。また、これらの学習をつなげ、広げ、深めるような支援のあり方を明らかにする。その上で、最近の自治体の図書館計画について、あなたの言葉で評論していただきたい。

アドバイス 講義を聴きながら、各テーマに基づくワークシートを作成する。そのことにより、自己内対話による主体的で深い学びを目指してほしい。この自己内対話で生じたあなたの意見や疑問は、双方向システムによって、講義で紹介し、コメントする。

図書館概論

講師 むらやま たかお
村山 隆雄

講義概要・授業計画 「講義概要・授業計画」図書館の意義、図書館を支える活動理念、出版界の現状、図書館の種類と機能、図書館政策と図書館関連法規、図書館協力・類縁機関との協力、図書館の動向と課題など、図書館に関する基本的事項を学びます。

1. 授業の進め方・現代社会と図書館
2. 図書館を支える活動理念
3. 出版と図書館
4. 著作権と図書館サービス
5. 図書館関連法規と行政・施策
6. 地域社会と図書館
7. 公共図書館の制度と機能
8. 学校図書館の制度と機能
9. 大学図書館の制度と機能
10. 専門図書館の制度と機能
11. 国立図書館の制度と機能
12. 外国の図書館
13. 図書館協力と図書館関係団体
14. 図書館の動向と課題
15. まとめと試験

教科書 今まど子・小山憲司 編著『図書館情報学基礎資料 第3版』（樹村房、2020）

参考書 前川恒雄、石井敦 共著『新版 図書館の発見』（NHK ブックス、2006）
（版元品切れにつき、最寄りの図書館で借りて読んでおきましょう）

アドバイス 図書館概論は、講習における学修の出発点であるとともに帰結点でもあります。講習を機に、身近な公共図書館を訪問し、図書館の今を実感しながら、活用することを心がけてください。

講義概要・授業計画 図書館サービスを円滑に進める上で必要な組織運営にかかわる関連法規、自治体組織における政策的な位置づけ、図書館経営の考え方、職員、施設、予算等の運営資源の確保、サービス計画の実施と評価について学び、社会教育施設としての公共図書館の運営に必要な知識の習得と諸問題の理解を目的とします。

1. 図書館経営の考え方
2. 図書館サービスと関連法規
3. 組織と職員
4. 施設・設備管理
5. 図書館の財務
6. サービス計画と予算
7. 図書館業務・サービスの評価

教科書 糸賀雅児・葉袋秀樹 編著『図書館制度・経営論』（現代図書館情報学シリーズ2）（樹村房、2014）

参考書 今まど子・小山憲司 編著『図書館情報学基礎資料 第3版』（樹村房、2020）

アドバイス 図書館は、貸出やレファレンス、児童サービスや健康情報サービスといった企画立案型の各種サービスを提供しています。図書館にかかわる制度の理解と経営学的視点を身に付けることは、こうした実務やサービスを形にして動かしていくうえで欠かせないノウハウです。目的を達成するための実践力の一つとして、興味を持って参加してください。

講義概要・授業計画 図書館システムの導入・運用や図書館業務支援に必要な情報処理技術について講義します。前半は、最初に図書館を取り巻く情報処理技術や図書館システムの最新動向について概説し、続いてハードウェアとソフトウェア、OSとミドルウェア、ネットワーク、データベース、アルゴリズムなど情報処理技術の基盤となる仕組みについて概説します。後半は、図書館業務システム、検索サービス、ウェブサービス、セキュリティ、マネジメントなどについて、実際に私がこれまで開発・運用してきたシステムを紹介しつつ詳説します。また、機械学習やAI等のテクノロジーにも言及します。「情報プロフェッショナル（インフォプロ）」として、システムライブラリアンのみならず、これからの図書館員に必要とされる情報処理技術（ITスキル）とは何か？にフォーカスします。主な講義内容を以下に示します。

- 前半：1. 図書館を取り巻く情報処理技術や図書館システムの最新動向 2. ハードウェアとソフトウェア
 3. OSとミドルウェア 4. ネットワーク 5. データベース 6. アルゴリズムとプログラミング
 7. クラウドインフラ 8. アプリケーションプログラミングインタフェース（API）
 9. コンテンツマネジメントシステム（CMS）
- 後半：10. 図書館業務システム 11. 検索サービス（OPACとディスカバリーサービス）
 12. メタデータと全文検索 13. デジタルアーカイブ（IIIF）、機関リポジトリ、研究データプラットフォーム
 14. 集中処理と分散処理、バックエンドとフロントエンド
 15. 図書館ウェブサービスとハイブリッドアプリケーション
 16. 機械学習、人工知能（AI）、VR/AR、ディープラーニング、ブロックチェーン等
 17. 情報セキュリティとマネジメント 18. まとめと試験

教科書・参考書 購入の必要はありません。以下は一部です。

- ・ブライアン・カーニハン『教養としてのコンピューターサイエンス講義』（日経BP、2020）
- ・田窪直規 編、岡紀子・田中邦英 著『図書館と情報技術』（樹村房、2017）
- ・田中均 著『図書館情報技術論』（青弓社、2019）
- ・杉本重雄 編『図書館情報技術論（現代図書館情報学シリーズ3）』（樹村房、2014）
- ・河島茂生 編著『図書館情報技術論』（ミネルヴァ書房、2013）
- ・日本図書館情報学会研究委員会 編『メタデータとウェブサービス』（勉誠出版、2016）
- ・Louis Rosenfeld, Peter Morville, Jorge Arango 共著『情報アーキテクチャ 第4版』（オライリー・ジャパン、2016）
- ・ピーター・ダイヤモンド、スティーブン・コトラー 共著『2030年：すべてが「加速」する世界に備えよ』（NewsPicks パブリッシング、2020）

アドバイス 図書館員はインフォプロとして見られますので、システムライブラリアンでなくても、ITスキルは必須となります。「文系だからITはよくわからない・知らなくてもよい」とは言えない時代に来ています。時々刻々と創出される様々なメディアコンテンツの中からユーザーが立てた問いやストーリー（コンテキストやシナリオ）にマッチした情報を効率的に得るには最新の情報処理技術の習得が欠かせません。大学も教養＋実学＋文理融合の時代です。ざっくりでもよいので、情報処理技術の基本用語の意味や概念を把握しておきましょう。

講義概要・授業計画 図書館の財政や組織、分類や目録、選書や配架、リクエストやレファレンス、コンピュータシステムなど、様々な人的物的資源や業務は全て利用者ニーズに対応するために存在しています。ニーズの内容は利用者の自己実現や課題解決のためであったりリクリエーションのためであったりと非常に多様です。図書館の個々の要素がいくら優れていても、最終的に高度で良質なサービスが提供されなければ意味がありません。講習の各授業では、図書館資源や業務についてそれぞれの分野を個別に独立させて学習することになりますが、図書館の現場ではそれらの資源や業務などの諸要素は複雑に絡み合っサービスや業務を構成しています。図書館における諸要素の有機的な関係が利用者や社会の変化と共にどのように変遷し、現在どのような状況にあり、またどのような理念、機能を生み出したかを理解しましょう。

1. 公共図書館の理念とサービス
2. 公共図書館のサービスの構造と図書館資源
3. 資料提供と全域奉仕
4. 対象者別サービス
5. 「図書館利用に障害のある人」へのサービス
6. 課題解決型サービス1(ビジネス支援サービス)
7. 課題解決型サービス2(医療健康情報サービス)
8. 課題解決型サービス3(法律情報サービス)
9. 課題解決型サービス4(行政支援サービス)
10. 媒体別サービスと集会事業
11. ハイブリッド型図書館と情報リテラシー支援
12. 図書館とボランティア
13. 公共図書館と著作権1(貸出、複写、映像貸料提供)
14. 公共図書館と著作権2(障害者サービスと著作権など)
15. 各種図書館とのネットワーク まとめ

アドバイス 居住地などの図書館に利用者登録をしましょう。自身の課題について質問をしてレファレンスサービスを受け、興味のない分野の書架についても目を通してください。図書館が扱う対象は森羅万象におよびます。社会のあらゆることについて興味をもちましょう。

講義概要・授業計画 膨大な情報があふれている現代社会において、すべての人が個人の力のみで求める情報を的確に収集し得ているだろうか。また膨大な情報を利用しやすく保存できているだろうか。それを個人の能力を超えて支えているのが社会基盤としての図書館である。また図書館は利用者の求める情報を正確に速やかに提供してこそ利用者の信頼を得られる。本授業では、利用者の求める情報を草の根を分けても探し出し提供する図書館の情報サービスについて考える。到達目標として ①図書館における情報サービスの意義と内容を理解する、②図書館の目的を理解し説明できる、③司書として必要な知識を身につける、の3点を目指す。

1. 図書館の本質と情報サービス
2. 情報サービスの歴史
3. 情報サービスの種類
4. レファレンスサービスの理論と実践
5. レファレンスサービスの実践
6. 情報検索サービスの理論と方法
7. 各種情報資源の特質と利用方法①情報メディア・文献を探す
8. 各種情報資源の特質と利用方法②論文・記事を探す
9. 各種情報資源の特質と利用方法③事項・事実の検索
10. 各種情報源の評価と解説
11. 各種情報資源の組織化
12. 発信型情報サービス
13. 情報サービスにかかわる知的財産権
14. 図書館利用者教育と情報リテラシーの育成
15. まとめ

教科書 今まど子・小山憲司 編著『図書館情報学基礎資料 第3版』(樹村房、2020)

参考書 (おすすめ本です。事前に読んでおくことが望ましい)

- 竹内 哲 著 『生きるための図書館：一人ひとりのために』, 岩波書店, 2019, (岩波新書, 新赤版 1783)
- 前川恒雄 著 『新版 図書館の発見』NHK ブックス, 2006 (版元品切れにつき図書館で借ります)

アドバイス 図書館のレファレンスサービスコーナーへ行き、レファレンスブックを実際に使って見ましょう。利用することで授業の理解も深まります。また身近な図書館をはじめ色々な図書館を見学すると良いでしょう。

講義概要・授業計画 本講義は公共図書館における児童を対象とするサービスを中心に講義を進めます。また、児童向け図書資料への理解と子どもと本を結びつける技術の習得をめざします。図書館の児童サービスは、児童を対象とする図書館サービスのことであり、「児童サービス」ともいいます。一般に児童とは、18歳以下を指し（児童福祉法第4条、児童の権利条約第1条）、広義の児童サービスは0歳から18歳までの子どもを対象としています。発達段階に応じて、乳幼児サービス、児童サービス（狭義）、青少年（ヤングアダルト）サービスの3つの段階に分かれます。この場合の「児童」は、ストーリーを理解できる3歳以上の就学前児童から小学校児童までを指しますが乳幼児についても別途、学びます。そこで、対象年齢に沿った選書についても講義します。

また、児童資料を利用する保護者、児童関連機関の職員、学生や研究者等に対する図書館サービスも児童サービスに含まれます。そのために今日の新しい動向である電子書籍の導入と利活用についてもふれます。

一日目は児童サービスの意義と役割、子どもの発達と読書、児童室の運営と業務、児童図書や児童サービスの歴史、児童資料の種類および対象年齢別選書指針について講義します。二日目は子どもと本を結ぶ「読み聞かせ」演習を行います。

また、乳幼児から青年期に至るまで発達段階に応じた読書支援活動の「ブックスタート」「ブックトーク」「ストーリーテリング」「読書のアニメーション」「ビブリオバトル」等について解説します。

最後にヤングアダルトサービスの一環である学習支援について、図書館で探究型学習をどう支援しているか、学校等との連携はどうなっているかなど、公共図書館の取り組み事例の紹介を含めて講義します。

1. 児童サービスの意義と役割
2. 子どもの発達と読書
3. 児童室の運営と業務・児童図書館の歴史
4. 児童資料の種類および対象年齢別選書指針
5. 読み聞かせ演習
6. ブックスタート・ブックトーク・ストーリーテリングについて解説と実演
7. 読書のアニメーションとビブリオバトルについての解説と実演
8. 学習支援としての児童サービス及び電子書籍の導入と活用について

参考書 堀川照代編著『児童サービス論 新訂版 JLA 図書館情報学テキストシリーズ III 6』日本図書館協会, 2020.

アドバイス 講義とともに読み聞かせ実習を行います。読み聞かせ実習用に準備していただく図書資料は本学図書館児童室にある世界の絵本コレクションを活用なさると良いでしょう。

講義概要・授業計画 / (高梨 章) レファレンスサービスの仕事には二つの喜びがあります。一つは資料を知る・資料を読む喜びです。もう一つは利用者を知る・利用者を読む喜びです。この二つをクロスさせる仕事がこのサービスの仕事です。

1. レファレンスサービスの楽しさ・難しさ(レファレンスサービスの種類、レファレンスプロセス、レファレンスインタビュー、図書館員がつくる壁、利用者がつくる壁について)
2. レファレンスサービス担当者は、どんなふうに行っているのでしょうか(『図書館司書という仕事』を読む、「情報便利屋の日記」を読む、文献調査ガイダンス)
3. レファレンスブックについて 4. 発信型情報サービスについて

/(伊藤 民雄) 「情報サービス論」で修得した基礎知識を踏まえて、レファレンスインタビューや質問回答を処理していくために要求される基本的な知識と技能について講義と演習(参考図書の解題と評価、パスファインダー作成など)を行い、また受講生同士による課題の相互評価も行います。図書館サービスの中心であるレファレンスサービスについて、演習課題を解決しながら参考図書の使い方を学び、質問の受付から回答までのプロセスを学習することによりレファレンスサービスの実践的な技術を修得します。

- ・情報サービスの設計、レファレンスコレクションの整備、レファレンスインタビューの技法と実際、質問に対する検索と回答、発信型情報サービスの実際

/(千 錫烈) 情報サービスとは、図書館利用者の研究や調査を支援するために、利用者の質問や相談に基づいて情報検索や文献調査などを行い、適切な情報を案内・提供するサービスであり、その中心的なサービスであるレファレンスサービスについて学んでいきます。

インターネットの普及によって、様々な情報を簡単に入手することが可能になりましたが、全ての情報が電子化されているわけではありません。そのため、印刷資料でないと入手できない専門的な情報も多いです。本演習では主に印刷資料を中心にデータベースも取り扱いながらレファレンスサービスの演習を行います。

参考書 中西裕、松本直樹、伊藤民雄 共著 『第2版 情報サービス論及び演習(ライブラリー図書館情報学 6)』(学文社、2019)

竹之内禎 編著『情報サービス論』(学文社、2013)

山口真也・千錫烈・望月道浩編著『情報サービス論』(ミネラルヴァ書房、2018)

アドバイス / (高梨 章) 利用者から来る質問はクイズの問題ではありません。教科書の演習問題には、きちんとした形で質問が載っていますが、実は「質問」というものは、利用者と図書館員が共同で作成するものなのです。そこがキモだ、ということを常に忘れないようにしましょう。

/(伊藤 民雄) レファレンスサービスはとにかく「習うより慣れろ」です。図書館の参考図書コーナーだけでなく、一般書架で調べ物に役に立ちそうな本を多く見ることをお勧めします。

/(千 錫烈) レファレンスサービスは失敗を重ねながらも経験を積んでいくことが非常に重要です。本演習では実践のスタートラインに立てるべくスキルを身につけていきたいと思います。

講義概要・授業計画 / (高梨 章) 種々の演習問題に取り組みながら、参考図書や各種のデータベース、インターネット上の情報を駆使して回答してもらいます。その場合、大切なのは一つの問題に対し、アプローチを、戦略をいくつも考えること、用意することの大切さです。回答までのプロセスの大切さを学んでもらいます。

授業形態は、グループごとに演習問題に取り組み、図書館をブラウジング、あるいは国会図書館やNII その他のデータベース等を駆使して回答してもらいます。回答発表は、各グループから代表者が行います。同じ問題でもグループによってアプローチが違うことも勉強になります。併せて雑誌や新聞文献とデータベースの関係、また、参考文献・引用文献の読み方等についても学習します。

/(伊藤 民雄) 情報サービスは、参考図書を駆使した従来からの手法に加えて、デジタル化された情報源を使いこなす知識と技能が要求されています。本講義ではコンピュータを使って演習を行います。「情報サービス論」で習得した基礎知識を踏まえて、情報検索の基礎、二次情報と対応するデータベース、そしてデータベースの仕組みを概観し、コンピュータを使った情報検索の手法を習得します。内容は、検索のための基礎知識、図書内容情報、雑誌記事情報、人物略歴情報、地域情報、インターネットの無料情報源を使った情報検索などです。

/(千 錫烈) 私たちの日常では様々な情報があふれており、情報の探索・評価・利用といった「情報リテラシー能力」が強く求められています。本演習では、情報検索に関する基礎的な知識と技術を学び、データベースによる情報検索と演習を通じて図書館員として実践的な検索能力を身につけることを目標とします。また、パスファインダーの作成を通じて情報源の探索・収集・分析・加工・発表といった一連の「情報リテラシー能力」を修得していきます。

参考書 中西裕、松本直樹、伊藤民雄 共著 『第2版 情報サービス論及び演習(ライブラリー図書館情報学 6)』
(学文社、2019)
竹之内禎 編著『情報サービス論』(学文社、2013)
山口真也・千錫烈・望月道浩編著『情報サービス論』(ミネラルヴァ書房、2018)

アドバイス / (高梨 章) 最初は「わあ こんな問題 どうやればいいのか わからな〜い」ということも間々あると思いますが、気軽に質問してください。また、グループ内で議論、検討することがとても大切です、勉強になると思います。

/(伊藤 民雄) 利用者からの質問内容を分析し、回答ツールとして電子メディアを選択したと想定するのが「情報検索演習」です。当教科では、電子メディアに回答ツールが制限されますが、現場では紙メディアを用いて回答してもよいのです。難しく考えず、気楽にいきましょう。

/(千 錫烈) 皆さんも Yahoo! JAPAN や Google など普段から情報検索を行っていると思いますが、欲しい情報を的確に得られているでしょうか? 図書館で使用する専門的なデータベースを使用して的確な情報検索のスキルを身につけていきましょう。

講義概要・授業計画 図書館情報資源を印刷資料、非印刷資料に類型化し、それらの特徴、蔵書（コレクション）構築の意義、選書と収集、蔵書評価、蔵書の管理と保存、学術情報の生産と流通、図書館情報資源に関する課題など、図書館サービスに必要なネットワーク情報資源を含む図書館情報資源の基本的事項を学びます。

1. 授業の進め方と情報メディアの歴史を俯瞰する
2. 図書館情報資源の類型化：図書・雑誌・新聞
3. 小冊子・エフェメラ・地図・マイクロ資料・映像資料・録音資料
4. すべての利用者のために：点字資料・録音資料
5. 蔵書構築とその意義
6. 蔵書構築のサイクル（選書・収集・排架・保管・除架・除籍・廃棄・評価）
7. レファレンス・ブックとその意義
8. レファレンス・ブック解題作成（演習）
9. 地域資料と情報
10. 有用なネットワーク上の情報資源（1）政府情報
11. 有用なネットワーク上の情報資源（2）：学術情報と CiNii 等
12. 学術情報の生産・流通と図書館：専門情報にどのように対応するか（人文・社会・自然科学・工学等）
13. 図書館情報資源の課題（1）：多文化サービス
14. 図書館情報資源の課題（2）：図書館情報資源の蓄積と保存
15. まとめと試験

教科書 今まど子・小山憲司 編著『図書館情報学基礎資料 第3版』（樹村房、2020）

参考書 馬場俊明 編著『図書館情報資源概論 新訂版』（JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ 8）（日本図書館協会、2018）

アドバイス 図書館情報資源は紙、マイクロ、音盤、フィルム、デジタルと多様な媒体で構成されています。現在の図書館は、「所蔵しているもの」だけでなく、「所蔵していないもの」も活用して豊かな情報サービスを提供しています。本科目を通して、図書館情報資源の多様性を理解し、図書館サービス概論や情報サービス論・情報サービス演習に備えましょう。

講義概要・授業計画 本講義では、こうした図書館情報資源の組織化の理論と技術について、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データの活用法等を中心に、できる限り幅広い視点から解説します。

世界のグローバル化、社会の情報化が急速に進展するなかで、図書館を取り巻く状況も大きく変化しています。図書館の業務やサービスにおいても、その基礎となる情報技術の知識や技術の向上が不可欠となっています。図書館資料ということでみますと、これまでは印刷資料、非印刷資料、電子資料という分類がされてきました。現在では、従来の図書館資料の形態に「ネットワーク上の情報資源」も加えて、これらを包括する概念として「図書館情報資源」という言い方がされるようになりました。

本講義では、こうした図書館情報資源の組織化の理論と技術について、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データの活用法等を中心に、できる限り幅広い視点から解説します。

- 1日目：・開講にあたって ・情報資源組織化の意義と理論 ・書誌コントロールと標準化
・書誌記述法(1) ・書誌記述法(2)
- 2日目：・主題分析の意義と考え方 ・主題分析と索引法 ・主題分析と分類法(1)
・主題分析と分類法(2) ・主題分析と分類法(3)
- 3日目：・書誌情報の作成・流通・提供 ・ネットワーク情報資源の組織化とメタデータ
・多様な情報資源の組織化 ・インターネットの進展と情報資源組織論の新しい潮流
・授業内テスト

教科書は、とくに指定のものはありません。毎回授業前に講義資料をプリントして配布します。

主要な参考書は、以下のとおりです。その他の参考書は、授業時にその都度紹介します。

- 参考書**
- ・那須雅熙／蟹瀬智弘『情報資源組織論及び演習』（第3版）学文社，2020年
 - ・榎本裕希子／石井大輔／名城邦孝『情報資源組織論』（第2版）学文社，2019年
 - ・柴田正美『情報資源組織論』（JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ-9）（新訂版）日本図書館協会，2016年
 - ・志保田務編著『情報資源組織論』（改訂版）ミネルヴァ書房，2016年
 - ・田窪直規編著『情報資源組織論』（改訂版）樹村房，2016年
 - ・北克一／平井尊士『学校図書館メディアの構成』（改訂新版）放送大学教育振興会，2016年
 - ・志保田務／高鷲忠美編著，平井尊士共著『情報資源組織法』（第2版）第一法規，2016年
 - ・根本彰／岸田和明編『情報資源の組織化と提供』東京大学出版会，2013年
 - ・長田秀一『情報・知識資源の組織化』サンウェイ出版，2011年

アドバイス 図書館はたくさんの資料を所蔵しています。これらが雑然と館内に置かれていたとしたら、どこにどんな資料があるのかわかりません。それを解消するために図書館で行われているのが「情報資源の組織化」です。その考え方の基本を皆さんと一緒に学びたいと思います。

情報資源組織演習(記述)－Aクラス－

講師 のぐち やすひと
野口 康人

講義概要・授業計画 図書館で扱う情報資源は従来からある図書に加え、視聴覚資料やオンライン情報などその種類の範囲を広げています。また扱う量も膨大となっており、これらの情報資源を利用者に効率よく、かつ円滑に提供していく必要があります。本科目では、利用者が目的の資料をストレスなく検索し活用できるよう、情報資源に関する情報を整理整頓した状態で蓄積していく方法について学びます。具体的には、日本目録規則（NCR）を使用し、目録や標目の作成方法について、演習を通して実践的に学びます。また、目録情報をいかにデジタル化し、電子的にやりとりするについても学習します。

教科書 和中幹雄、山中秀夫、横谷弘美 共著『情報資源組織演習 新訂版』（JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ 10）（日本図書館協会、2019） ※「新訂版第5刷発行 JLA201924」

ツール 日本図書館協会目録委員会 編『日本目録規則 1987年版改訂3版』（日本図書館協会、2006）
※ツールはご用意します。

アドバイス 情報資源組織論で学んだ内容を習得していることを前提としますが、演習に必要な箇所は改めて説明しながら授業を進行しますので、どうぞご安心して受講ください。また、演習課題はクラスの状態に応じて進めていきます。焦る必要はないので、自分のペースで取り組んでいただければと思います。

講義概要・授業計画 情報資源と総称されるものは、図書・逐次刊行物などをはじめ多種多様であり、それは紙媒体であったり、ネット上に存在していたりと様々な様相を呈していて、それぞれに特性があります。この授業では、図書館で行われている、種別毎の、分類規則に沿った情報資源の目録作業を習得するため、ひととおりの概略の把握を目指し、今後、OJT の機会を得た場合は、そこで専門性を高めていけるように、そのための素地づくりを今ここで培っておくというイメージで、取り組んでみましょう。現在、既に業務に就いている場合は、その専門性にアカデミックな裏付けを加味することで、より重層的に捉えるスキルを養えるよう、そして、携わっている領域以外についても視野を広げられるよう、取り組んでみましょう。

教科書 和中幹雄、山中秀夫、横谷弘美 共著『情報資源組織演習 新訂版』(JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ 10) (日本図書館協会、2019) ※「新訂版第5刷発行 JLA201924」

ツール 日本図書館協会目録委員会 編『日本目録規則 1987年版改訂3版』(日本図書館協会、2006)
※ツールはご用意します。

アドバイス 昨今、複数の図書館の共同検索サイトが設置され、利便性に寄与していますが、中には、同一資料に対応する目録が各館毎に違う事例もあり、その場合、利用者が別資料として認識してしまうことも。まずは基本の規則に習熟し、その上で特例も学んでいきましょう。

講義概要・授業計画 演習を通じて主題組織の技術を習得します。とくに分類作業では、主題組織の理論の復習も兼ねて、分類規程や補助表など『日本十進分類法(新訂10版)』(NDC10)の使い方についてのひととおりの解説を行った上で演習を行います。演習では、第一に主題を分析し、そして取り出された主題に対して NDC の詳細な分類記号に翻訳します。NDC は2014年12月に新訂10版となりました。このため、以前のNDC9からの変更点についても解説します。また、分類作業とともに基本件名標目表(BSH)による件名作業の関連についても解説します。以下については、大学から貸出があります。ご自身のものを使用しても構いません。

ツール 日本図書館協会分類委員会改訂『日本十進分類法 新訂10版』(日本図書館協会、2014)
日本図書館協会件名標目委員会編『基本件名標目表 第4版』(日本図書館協会、1999)

アドバイス 情報資源組織論で得た知識や理論を各自で復習しておく、スムーズに演習に入ることができると思います。演習は集中力が必要で少し体力的にもたいへんですが、楽しみながら学びましょう。

講義概要・授業計画 情報資源組織論に基づき、演習(主題)では、『日本十進分類法(NDC)新訂10版』による分類作業、『基本件名標目表(BSH)第4版』による件名作業を通じて、それらのツールの使用方法を詳しく学びます。

ツール 日本図書館協会分類委員会改訂『日本十進分類法 新訂10版』(日本図書館協会、2014)
日本図書館協会件名標目委員会編『基本件名標目表 第4版』(日本図書館協会、1999) ※ツールはご用意します。

アドバイス テキストの解説を読み、NDCやBSHを使用して演習問題を解いていきます。利用者や自分が主題検索をする場合の事を考えながら作業をしてください。テクニカルタームが多く難しいので、分からないことが生じたらすぐに質問をするようにしてください。

講義概要・授業計画 図書館資料について、公立図書館で重視される逐次刊行物、政府刊行物、地域資料を中心に学習します。また資料の収集・提供に関する諸問題や最近の図書館に関わる諸問題についても検討します。到達目標として ①公共図書館における資料の特徴を説明できる、②各種資料の収集、運用方法を説明できる、③現在の図書館界における資料組織の動向を理解できる、④関連する用語や法令、宣言などを理解し説明できる、の4点を目指します。講義中心ですが、適宜、受講生の意見交換も行います。

1. 図書館情報資源（図書資料）とは何か
2. 記録資料の歴史
3. 逐次刊行物の特徴と種類
4. 政府刊行物の特徴と種類
5. 地域資料の特徴と種類
6. 資料保存
7. 資料収集に関する実際の事例検討
8. 資料提供に関する事例を検討
9. まとめ

教科書 今まど子・小山憲司 編著『図書館情報学基礎資料 第3版』（樹村房、2020）

参考書 （おすすめ本です。事前に読んでおくことが望ましい）

竹内 哲 著『生きるための図書館：一人ひとりのために』、岩波書店、2019、（岩波新書、新赤版 1783）

前川恒雄 著『新版 図書館の発見』NHK ブックス、2006（版元品切れにつき図書館で借ります）

アドバイス 最寄りの公立図書館へ行き、各種資料を手にとってみましょう。また図書館の目的、公立図書館が存在する意義を考えてください。上記の参考書が役に立ちます。

図書館文化史

講義概要・授業計画 文字と様々な記録媒体の発明を経て、活版印刷と紙・パルプの進化は、情報を記録し伝搬させる技術を飛躍的に拡大し、読書と読むことによって情報を共有する場としての図書館を普及発展させた。こうして図書館は人類文化の大いなる発展をもたらした。ところが 20 隻末になって生み出された電子技術は記録と情報伝達の場としての図書館の概念を一変させた。印刷物として出版される”図書”さえも電子技術の中で生産される。電子技術による情報の記録と読書行為は、人々のコミュニケーションの在り方を大きく変貌させている。人々は日常生活のあらゆる場で、読書行為を行うようになった。場としての図書館は、今後どのようなようになっていくのか。図書と図書館の歴史を理解することによって、図書館という機能が、人類社会と文化の発展にどのような意味を持ってきたかについて学ぶ。

い、人類社会と文化の発展に何をもちたらすのかを考えます。

- 1 回 オリエンテーション、紙以前の図書及び記録媒体
- 2 回 古代：メソポタミア文明と図書館、アレキサンドリア図書館
- 3 回 中世：修道院図書館、大学の誕生と知識の価値化
- 4 回 近世初期；紙と印刷術のヨーロッパへの伝搬、グーテンベルクの印刷術
- 5 回 近世中期：印刷術の普及とルターの宗教改革、出版物の変化と読書の変化
- 6 回 近世後期：啓蒙主義と図書の変化、図書館学の萌芽
- 7 回 近代：近代市民革命と図書館、イギリス産業革命とフランス革命に見る図書館、
- 8 回 近代：アメリカ独立戦争と近代公共図書館の誕生、振り返り

教科書 寺田光孝編集 『図書及び図書館史』（新・図書館学シリーズ 12）（樹村房、1999）

今まど子・小山憲司 編著『図書館情報学基礎資料 第3版』（樹村房、2020）

アドバイス 図書館はいつの時代でも社会のありようと無縁ではられません。ライブラリアンを志す者は、常に社会のことに関心を持ちましょう。そうすれば、図書館で仕事をするこの意味が見えてきます。そして、たくさんの小説を読みましょう。